

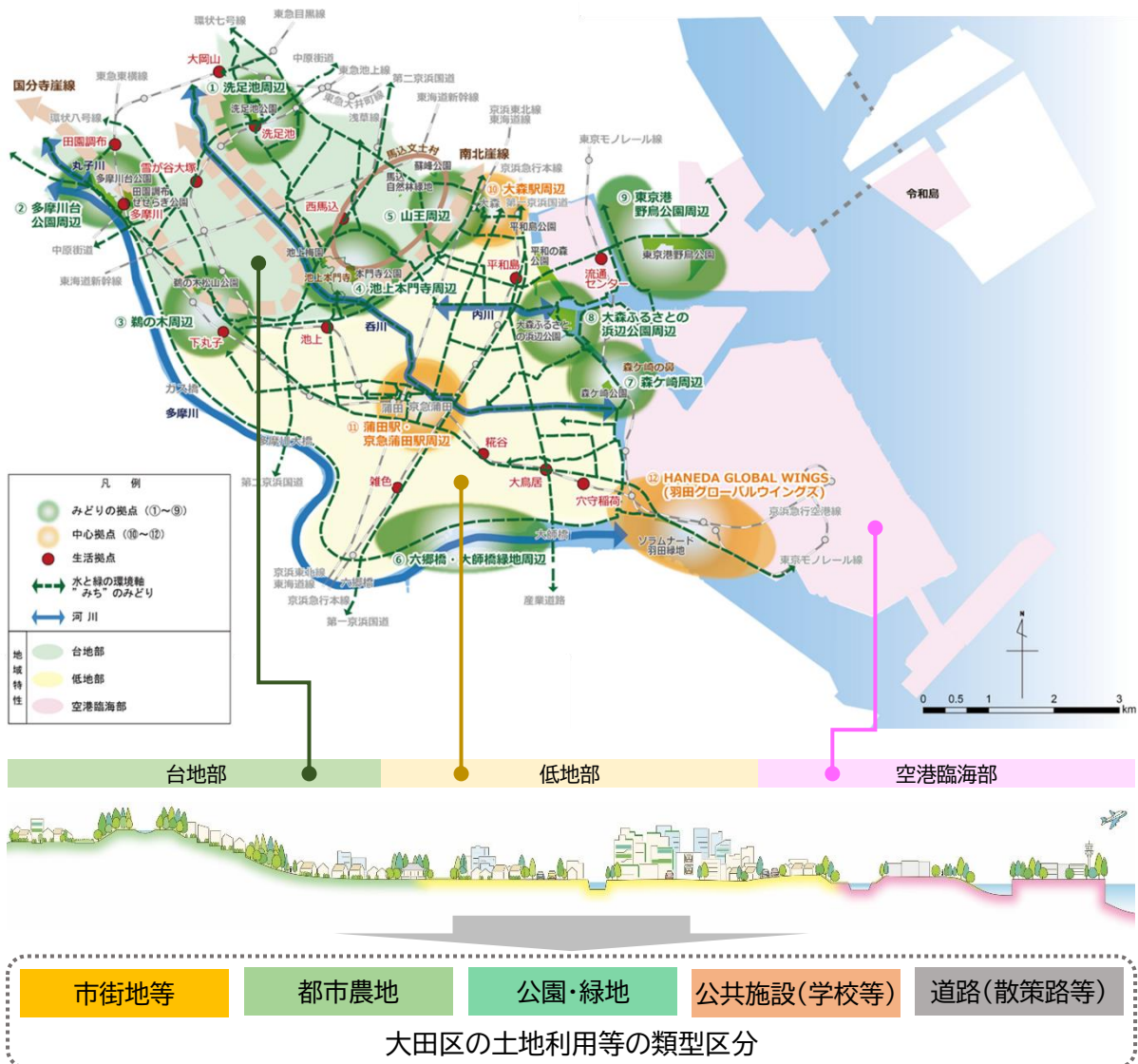
第4章 類型別グリーンインフラ導入方針

1 大田区らしいグリーンインフラ導入の考え方

大田区の地形は、グリーンプランにおいて台地部、低地部、空港臨海部に大別しています。また、特徴的な地形や用途に応じて土地利用を分類し、公園・緑地や市街地等の各区分に応じたグリーンインフラ導入方針を示しました。

みどりのまちづくりの課題を対象としたグリーンインフラの取組導入は、その類型ごとに、複数の効果を発現させることで、様々な課題解決へ繋がります。

また、類型別にグリーンインフラの導入方針を示すことで、効果を明確にし、実効性の高い計画推進を目指します。



[グリーンプランおおた「大田区らしさを表すみどり」にみる大田区の土地利用等の類型]

2 類型別グリーンインフラ導入方針

(1) 類型別グリーンインフラ導入方針

市街地等

大田区は、良好な市街地から埋立地の産業系土地利用に至るまで、多様な地域の集合体で形成され、住まいや住環境などに対する様々なニーズがあります。そこで、まちの地域特性に対応しつつ、良好な住環境の形成を進めることが求められます。

市街地については、区内に残る貴重な自然環境に対し、積極的な保全・育成に努めるとともに、防災・減災及び景観形成など多面的な機能の発揮を図ります。また、みどりの機能を活用することで、生活利便性の向上とにぎわいの創出を図り、区民協働によるみどりのまちづくりを進めます。

環境

防災・減災

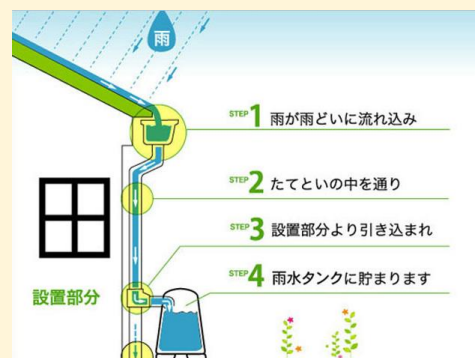
地域振興

■導入方針

- 雨水貯留機能の充実 ●
- 雨水貯留機能の確保や生垣の植栽等に関する助成制度の促進 ●●
- 建築物における緑化の促進 ●
- みどりの条例に基づく緑化空間の確保 ●
- 民有地におけるみどりづくりの推進 ●●
- 防災意識の醸成・向上 ●



▲オープンガーデンのイメージ



▲雨水タンクの設置イメージ

導入効果（期待される効果）

- 防災・減災 雨水の一時貯留による内水氾濫の抑制・防止
- 環境 脱炭素化への貢献
- 地域振興 魅力的な街並み景観の形成

コラム～市街地でのグリーンインフラ～

■宅地内への雨庭づくり

- ・内水氾濫が懸念される市街地では、宅地からの雨水の流出を抑制し、水路や下水道への雨水流入を軽減することを目的に戸建住宅での雨庭づくりが期待されます。



▲杉並区の宅地内の雨庭 [出典：NHK Web サイト]



▲杉並区の宅地内の雨庭 [出典：NHK Web サイト]



■区の補助・助成制度

雨水タンク設置助成制度

<助成対象区域>

- ・大田区内全域

<助成対象者>

- ・大田区内に雨水タンクを設置し、使用する方。

<助成金の種類及び助成金額>

助成金の交付は、(1) または (2) のいずれか一方のみ。

- (1) 大型雨水タンク（有効貯水量1基当たり500リットル以上）設置助成金
本体価格・設置工事・ポンプ等設備の設置工事、諸費用の税込み合計額の1/2。助成限度額は30万円迄。
- (2) 小型雨水タンク（有効貯水量1基当たり500リットル未満）設置助成金
本体価格・設置工事・ポンプ等設備の設置工事、諸費用の税込み合計額の2/3（個人）または1/2（その他）。敷地につき2基まで助成可能。助成限度額は1基につき4万円迄。

植栽帯造成助成制度

<助成対象者>

- ・助成を受けることができる方は、植栽帯を造成する土地の所有者又は管理者

<助成対象となる植栽帯>

- (1) 接道部の緑の無い場所に新たに造成する植栽帯もしくは既存のブロック塀等を取り壊して造成する植栽帯が対象。
- (2) 植栽帯の要件<以下要件を全て満たす>
 - ・道路と敷地との道路境界線上に2メートル以上接していること。
 - ・道路境界線から奥行き5メートル以下の範囲内に、面積1平方メートル以上（縁石等を含む）の植栽帯を造成すること。
 - ・縁石等を設置する場合の高さは道路面から60センチメートル以下で、道路と植栽帯の間に遮へい物がないこと。
 - ・植栽帯の範囲がわかるようにすること。
 - ・造成する植栽帯が建築基準法第42条に規定する道路及び大田区管理道路に接していること。

都市農地

都市農業の持続的な振興に資する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本計画である「都市農業振興基本計画（平成 28 年）」において、都市農地は宅地化すべきものから都市にあるべきものとして方針転換されました。また、グリーンプランでは、区内に残るみどりを守るために、農風景を将来に引き継いでいくことを“おおた”のみどり方針にて示しています。

区内には、区民農園や生産緑地が点在しており、農風景の保全や地域コミュニティの場としての役割に加えて、場所によっては防災・減災に資する機能の充実が求められます。

環境

防災・減災

地域振興

■導入方針

- 雨水貯留機能の確保・拡充 ●
- 都市農地の維持・保全 ●
- 地域コミュニティ空間の創出・活用 ●



▲生産緑地（馬込シクラメン園）



▲南馬込区民農園

[出典：NPO 法人大田・花とみどりのまちづくり
WEB サイト]

導入効果（期待される効果）

防災・減災

雨水の一時貯留による内水氾濫の抑制・防止

環境

みどり空間の保全

地域振興

地域コミュニティの形成

地域振興

農業体験ができる場の提供

コラム～都市農地でのグリーンインフラ～

■雨水の貯留及び浸透機能の維持

- ・ 樹皮をマルチングとして再利用することで、雨水を貯留及び浸透させ流出抑制効果を得ることができます。
- ・ 地表面のクッション性を向上させ、安全な利用を促進することができます。



▲ウッドチップの園路 [出典：GreenSnap Web サイト]

■区民農園による“にぎわいの場”の創出

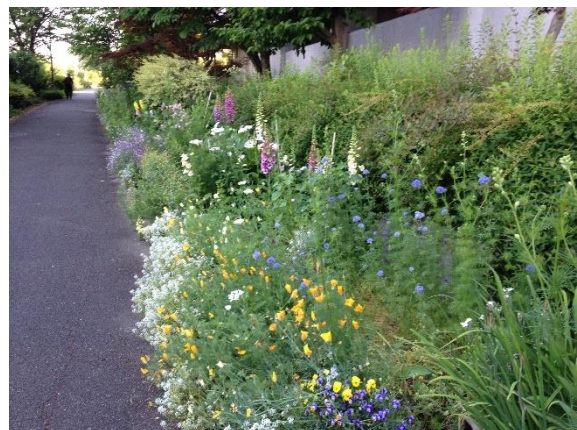
- ・ 土とのふれあいの場となる区民農園は、地域住民におけるにぎわいの場となるとともに、パーゴラやベンチ等を設置することで、利用者同士の地域コミュニティの醸成に寄与します。



▲南馬込区民農園

■ワイルドフラワーによる植栽

- ・ 道路境界等ではワイルドフラワー花壇を設置することにより、まちに華やかな景観を形成します。



▲ワイルドフラワー
[出典：大阪府 Web サイト]

公園・緑地

公園・緑地は、環境保全、レクリエーション、防災・減災及び景観形成の4つの役割を有しており、良好な住環境を構成し、区民が健康で文化的な生活を送るうえで重要な拠点となります。また、貴重なみどりを感じることができる空間であるとともに、脱炭素化の実現やヒートアイランド現象の緩和などのまちづくりに関する課題を解決するための役割を担っています。

大田区を地形から見ると、武蔵野台地東端にあたる国分寺崖線及び南北崖線がまとまりのある緑の帯を形成しています。一方で、斜面地に緑地が点在することから、土砂災害警戒区域に指定されている場所もあり、緑地として適切に保全することが求められます。

そこで、多様な機能を持つ水とみどりをグリーンインフラとして活用し、持続可能で魅力あるまちづくりに繋がります。

環境

防災・減災

地域振興

■導入方針

- 雨水貯留・浸透機能の確保・拡充 ●●
- 生物生息空間の創出・保全・活用 ●●
- みどり空間の維持・保全 ●
- 海辺環境の保全・活用 ●●
- 子育て世代が使いやすい空間づくり ●
- 健康増進に関する機能拡充 ●



大田区立東糶谷防災公園・ビオトープ

導入効果（期待される効果）

- 防災・減災 雨水の一時貯留による内水氾濫の抑制・防止
- 環境 暑熱環境の改善
- 環境 生物多様性の保全や環境に対する意識の向上
- 地域振興 区民ニーズに沿った公園づくり
- 地域振興 レクリエーションの場の創出や地域コミュニティの形成

コラム～公園・緑地でのグリーンインフラ～

■雨水貯留施設の整備、雨水貯留機能・雨水浸透機能を持つ植栽帯等の整備

- ・公園の地下貯留槽や浸透ますを埋設し、大量の雨水を貯留・浸透できる貯留槽を整備。
- ・周辺市街地からの雨水を取り込み一時的に公園内に貯留することで、周辺小規模河川への流出を抑制し、内水氾濫を防止できます。

二子玉川公園の地下に埋設されている
雨水貯留槽 ▶



■木陰のできる樹木の維持管理、水の蒸発散機能をもつ空間の整備

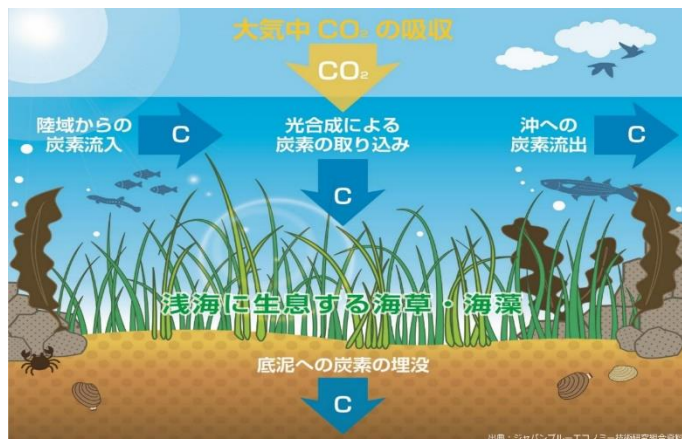
- ・木陰のできる樹木の維持管理とともに、人々の憩いの空間を整備しています。
- ・雨の日に舗装の中の微細な隙間に雨水を蓄え、晴れた日には蓄えられた水分が徐々に蒸発することで、気化熱により道路の表面温度を低下させる、打ち水の原理を応用した舗装を整備

グランモール公園（横浜市）▶
【出典：国土交通省資料】



■ブルーカーボン生態系

- ・2009年に国連環境計画の報告書において、海洋生態系に取り込まれた炭素が「ブルーカーボン」と命名され、地球温暖化対策としての吸収源の新しい選択肢として提示されたことで、世界的に注目されています。
- ・ブルーカーボンを隔離・貯留する海洋生態系として、海草藻場、海藻藻場、湿地・干潟、マングローブ林が挙げられ、これらは「ブルーカーボン生態系」と呼ばれています。大森ふるさとの浜辺公園にて実証実験が行われている「コアマモ移植実験」において用いられているコアマモは海草にあたり、ブルーカーボンとなり、脱炭素化にも貢献します。



▲ブルーカーボンのメカニズム（国土交通省資料）

公共施設（学校等）

区役所や学校等の公共施設は、多様な機能を担うことができる空間であり、防災・減災、環境及び地域振興の視点からまちづくりに関する課題へ適切に対応していく必要があります。

また、学校施設は、沿道緑化、校庭の芝生化及び建築物の緑化等に加え、公共建築物等の特性を踏まえた内装等の木質化を行っています。

そこで、空間を巧みに活用したグリーンインフラの取組を組み込み、持続可能で魅力あるまちづくりに繋がります。

環境

防災・減災

地域振興

■導入方針

- 雨水貯留・浸透機能の確保・拡充 ●
- 建築物における緑化の促進 ●
- みどり空間の維持・保全 ●
- 生物生息空間の創出・
保全・活用 ●●



矢口自然農園（矢口小学校）



昇降口付近での雨水タンクの設置例（茅ヶ崎市）

導入効果（期待される効果）

- 防災・減災 雨水の一時貯留による内水氾濫の抑制・防止
- 環境 暑熱環境の改善
- 環境 生物多様性の保全・創出
- 地域振興 環境教育の充実

コラム～公共施設（学校等）でのグリーンインフラ～

■学校内中庭へのビオトープの設置

- ・中庭を活用したビオトープを設置することで、環境教育の場としても活用し、児童・生徒の環境に対する意識の醸成を図ることができます。

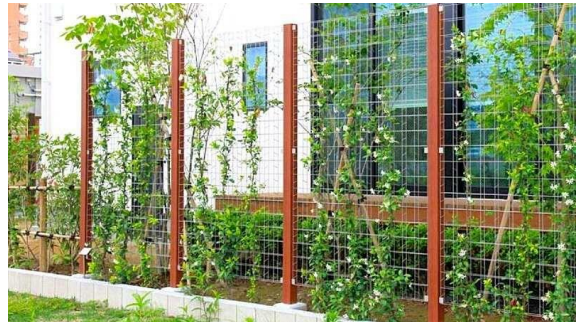


ビオトープ ▶

[出典：エコシティたかつ Web サイト]

■外構部の緑化

- ・学校等、公共施設の外構部に十分な空間がない場合は、外構部への透過性の高いフェンスの設置、つる性植物の植栽を行うことで、開放的でうらおいのある景観を形成することができます。



フェンスを用いた緑化 ▶

[出典：クローバーガーデン Web サイト]

■環境教育の実施

- ・グリーンインフラの取組について、わかりやすく明示することで児童・生徒の環境教育の場としても活用し、環境に対する意識の醸成を図ることができます。



八王子市立式分方小学校での取組 ▶

[出典：環境省グッドライフアワード Web サイト]

道路（散策路等）

みどりの機能を高めていくためには、拠点となる公園・緑地の整備等とともに、道路、広場及び散策路等を活用したみどりのネットワークの拡充が重要となります。

散策路は、区民の移動経路であると同時に街路樹や植栽等の身近なみどりを感じることができます。また、自然や歴史・文化などの魅力的な資源を活かすとともに、サードプレイスや健康増進の場として重要となります。

今後は、気候変動に伴う雨水対策や暑熱環境の改善等に向けて、グリーンインフラの取組を導入することで、持続可能で魅力あるまちづくりに繋がります。

環境

防災・減災

地域振興

■導入方針

- 雨水貯留・浸透機能の確保・拡充 ●
- 散策路や緑道等を活かした生物生息空間の保全・活用 ●●
- みどり空間の維持・保全 ●●
- 海辺環境の保全・活用 ●
- 木陰のできる空間づくり ●●



▲緑溝（バイオスウェイル）（ポートランド 米国）
【出典：グリーンインフラ総研】



▲木陰のある道路

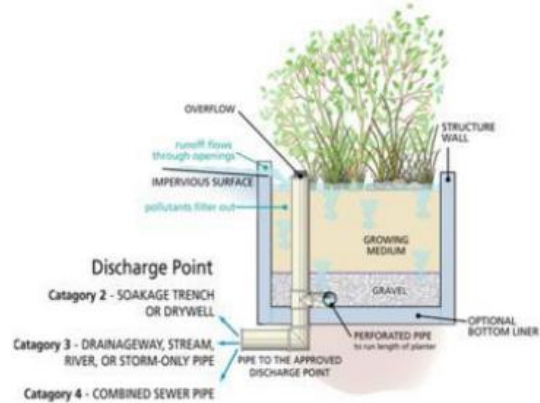
導入効果（期待される効果）

- 防災・減災 雨水の一時貯留による内水氾濫の抑制・防止
- 環境 木陰の創出による快適な空間形成
- 環境 暑熱環境の改善
- 環境 生物多様性の保全・創出
- 地域振興 魅力的な街並み景観の形成

コラム～道路（散策路等）でのグリーンインフラ～

■緑溝（バイオスウェイル）の整備

- ・ 車道等の路面表流水を歩車道境界に設置された浸透性のある植栽帯に集水し、地下へ浸透させることで、下水道への雨水の流入量を抑制します。
- ・ 地下への雨水浸透を促すことで、車の通行により排出される公害物質のろ過を図ることで河川の水質保全にも寄与します。



ポートランド市におけるバイオスウェイルの概念図 ▶
[出典：ポートランド web サイト]

■透水性舗装の採用

- ・ 雨水貯留浸透型舗装ブロックを用いて、雨水を排水します。
- ・ 貯留した雨水を徐々に路盤に浸透させ、良好な水循環の再生や、周辺の樹木等への健全育成に寄与することができます。



馬込桜並木 ▶

■散策路を活用したにぎわい創出

- ・ 都市利便増進協定等を活用することで、道路の歩道空間を活用し、街の活性化に資するイベントの実施、植栽の管理、道路の清掃を公民連携で行うことができます。
- ・ 市街地等の道路では、パークレットを整備することで、道路空間におけるにぎわいの創出、憩いや交流の場を創出できます。



▲さいたま市 OOMIYA STREET PARK [出典：UDCO web サイト]



▲KOBE パークレット [出典：神戸市 web サイト]

(2) 本計画におけるグリーンインフラ導入方針の全体像 (イメージ)

